

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271  
発行人 宮本 久  
編集人 片岡 伸子

定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.618

★野間読書推進賞授賞候補者推薦要項(3頁)

★野間読書推進賞受賞者の活動報告(5頁)

野間読書推進賞候補者推薦によせて



公益社団法人 全国学校  
図書館協議会 顧問  
笠原良郎

かさはら よしろう  
笠原良郎

## 多様化・長期化が進む読書推進運動

野間読書推進賞は、毎年秋の読書週間中の一日、受賞者への賞の贈呈式が行われる。受賞者決定のための選考委員会は夏の終わり8月末に開かれる。委員のひとりとして、その討議に参加しているが、全国各地から選りすぐられた団体・個人が対象であり、毎回白熱した議論が展開され、受賞者決定は、難航することが多い。

そのひとつは、読書推進活動の内容と対象の多様化である。以前から読書推進といえ、その対象は比較的低学年の子どもであり、地域文庫・家庭文庫などを中心に、読み聞かせやよい本の紹介などが行われることが多かった。それはそれで大きな成果をあげ、重要な役割をはたしてきたが、最近では高校生や社会人、障がいを持つ方たちへの読書推進活動が数多く見られるようになってきている。活動の内容も、一定の技術が必要とするストーリーテリングや地域の風土や歴史、地域ゆかりの作家研究、多様な障がいに対応した読書支援などと多様化している。

活動期間が著しく長期にわたっていることである。10年・20年は言うにおよばず、40年・50年という驚異的なケースも珍しくない。継続は力なりというが、栄耀栄華などまつたく無縁な読書推進活動を生涯かけて継続されている生きる姿勢は、まさに感動的であり、胸に迫る。長い間には、ご家庭の都合や転勤転居などの予期しない困難も生起することもある。驚くべきことに、見知らぬ土地に移られても、その地で、たちまち同志を見つけ、新たな読書推進活動を展開してしまう。その方の人格的な魅力と一種のオルガナイザーとしてのすぐれた資質がそれを可能にしているということであろう。

1948年、戦後早い時期に制定された国立国会図書館法は、その前文に「真理がわれらを自由にする」という一文を掲げている。主権者たる国民が政治や権力のウソを見抜き、真に民主的な社会・国家を作りあげるために、読書による英知の獲得が求められる。本の力、読書の力はきわめて大きい。それは社会や国のあり方をも左右する。だから自由に本で学ぶことは、民主主義の基盤である。

いま、全国各地で黙々と読書推進活動が続けられる多くの方々をより多く、世に知らしめ、その無私の願いと情熱を多くの人たちと共有するために、野間読書推進賞へのいつそう数多くの推薦・参加をお願いしたいものである。

# 第49回(2019年度)

## 『野間読書推進賞』

### 受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してまいりました。

この賞は、1969年、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年に講談社創業80周年を記念して2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年より、「野間読書推進賞」と改めました。

本年度もつぎに掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからの推薦をよろしくお願ひいたします。



野間読書推進賞賞牌

過去に推薦いただいた個人や団体を再度ご推薦くださってもかまいません。

#### 4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

受賞候補者の心当たりがある方は、これらの団体を通してご推薦ください。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ(<http://www.dokusyo.or.jp>)でご覧いただけます。ご推薦の参考としてください。

#### 3 受賞の対象

地域や職域などにおいて、読書の普及に永年力を尽くし、読書推進運動に貢献された個人または団体。業務として読書推進に関する事業に従事する者、また学校図書館関係は除外します。

個人の場合、年齢・職業に、団体の場合、会員数・規模などに制限はありません。

野間読書推進賞運営事業委員からなる選考準備委員会で候補者を絞り、8月下旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

#### 8 選考委員

- 笠原良郎 公益社団法人全国学校図書協議会 顧問
- 酒川玲子 公益社団法人 日本図書館協会 参与
- 野上 彰 児童文学・文化評論家 一般社団法人日本国際児童図書評議会 副会長



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

#### ■2019年度 定時総会開催のお知らせ

- 一、日時 2019年6月19日(水) 午後3時~4時30分
- 一、場所 出版クラブビル会議室 (東京都千代田区 神田神保町1-32) 03-5577-1511
- 一、議事・第1号議案 2018年度事業報告書と決算報告書承認の件
- ・第2号議案 役員改選承認の件
- ・第3号議案 2019年度事業計画書と収支予算書報告の件

\* 5月中旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。はがきのご返信と当日のご参加を、よろしくお願ひしあげます。

#### 9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

#### 10 贈呈式

2019年11月6日(水) 出版クラブホールにて 出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」執筆者のみなさんなどをお招きします。昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

■2019年度「絵本ワールド」開催予定

# 「子どもの本のおまつり」 今年も全国7か所で開催予定！

## 【開催決定】

「子どもの読書活動推進会議」が推進する「絵本ワールド」は2000年の「子ども読書年」から全国で開催されている子どもの本のおまつり。児童文学作家・絵本作家による講演やトークショー、開催地域の読書グループ・ボランティアによるさまざまなワークショップに加え、1万点を超える子どもの本の展示即売会などが行われる。主催者は開催地域の県立図書館・地元読書グループ・ボランティア・地元新聞社などが中心になった実行委員会。今年の開催地は以下のとおり。

第20回 絵本ギャラリーin奈良  
7月27日(土)・28日(日)  
奈良県奈良市 ならまちセンター

絵本ワールドinふくしま2019  
8月10日(土)・11日(日)  
福島県郡山市 ビッグパレットふくしま

絵本ワールドinとくしま2019  
8月17日(土)・18日(日)  
徳島県阿南市 夢ホール

絵本ワールドinひょうご2019  
8月24日(土)・25日(日)  
兵庫県神戸市 神戸市産業振興センター

絵本ワールドinいがた2019  
11月17日(日)  
新潟県新潟市 朱鷺マツセ

【開催予定】  
絵本ワールドinわかやま2019  
11月開催予定  
和歌山県有田郡 有田川町地域交流センターALEC

絵本ワールドinみえ2019  
11月開催予定  
三重県津市 高虎楽座・わくわくえほんひろば



昨年の「絵本ワールドinふくしま」オープニングセレモニー

■「子ども読書の日」記念フォーラム

# 長谷川義史さんの絵本ライブと 充実の表彰者事例発表

4月23日(火)、東京都渋谷区国立オリンピック記念青少年総合センターで「平成31年度「子ども読書の日」記念子ども読書活動推進フォーラム(主催「文部科学省」/国立青少年教育振興機構)」が開催された。今年度、文部科学大臣表彰を受けた子どもの読書活動優秀実践校は138校、図書館は47館、団体(個人)は56。

特別講演は、絵本作家 長谷川義史さんの「絵本で子どもたちを元気に!」。「子どもたちに本を届ける人たちを表彰する会に呼んでいただけで光栄。そんなみなさん

と絵本を共有し、笑っていただける時間になりたい」と、絵本ライブを展開。手話通訳がつくときにならず読むという、くり返しが印象的なデビュー作『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』では、「この作品は、手話通訳者の個性がでるんです。今日の方は両手を使っておもしろく伝えてくれました」と語った。また、沖縄の小学生の男の子の詩を絵本にした『へいわつてすてきたね』では、「子どもたちは、ぼくたちが作った時代を生きていく。平和な時代をバトンタッチしていかなくては」と述べ、そんな子どもたちへの応援歌『こどもたちGO!』をウクレレ演奏つきで歌つてしめくくった。

各部門の受賞者代表3団体による事例発表と対談は「子どもの読書への意欲を高めるために」。川村学園女子大学教授の田中孝一さんがコーディネータを務めた。「読書環境を整え、生徒の図書館活動を支える」を目的とした北海道の札幌南高等学校は、生徒たち



長谷川義史さんはイラストを描きながらのおはなしも!



ロビー(ホワイエ)には受賞者代表団体の活動報告が展示された

静岡県の函南町立図書館は、開館して6年だが、幼稚園・保育園・高校、地域他機関との連携事業に力を入れ、「赤ちゃんから高校までの切れ目のない図書館サービス」を展開。地域の図書館ができることの可能性を紹介した。

岩手県一関市の「おはなしばち」は、18年にわたり、図書館、空き店舗を利用した夜市などで活躍。会員どうしの学びあい、記録の共有を大切にし、子どもたちの笑顔から「私たち自身が生きていくエネルギーをもらっている」と活動のポイントを紹介した。

# 5月3日～5日 「上野の森 親子ブックフェスタ 2019」 開催されました！



中央噴水池広場での「子どもブックフェスティバル」は、70以上の出版社などがテントで絵本や児童書6万冊を読者謝恩価格で販売。各テントでは著者のサイン会、おはなし会なども随時行われ、子どもだけでなく、大人も熱心に本を手にとっていました。

今年も、日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会、日本児童出版美術家連盟、日本国際児童図書評議会の作家・画家・翻訳家団体が出展し、イラスト描きやワーク

5月3日(例)～5日(例)に東京都台東区の上野恩賜公園などで、「上野の森 親子ブックフェスタ 2019」(主催)子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/出版文化産業振興財団)が開催されました。



ショップ、おはなし会などで、著者と読者がふれあう貴重な時間を提供しました。

日本図書普及の協力で図書カードが当たるくじ引き(3000円以上買った人対象)も大好評。

3日間、おおむね晴天に恵まれ、会場は多数の来場者でにぎ



わい、書籍などの売り上げは約420万円となりました。

東京都美術館での講演会は、3日「子どもにとってのお話は本当に大事?なぜ?」物語の力と『燕語りの会』ライブ(原田留美さん、鈴木初江さん、近風京子さん)、二人ひとり、みんなたいせつ

【上丸】連日、各出版社のテントでは、熱心に本を選ぶ子どもたちの姿が見られました  
【上】オープニングでは、主催者代表と来賓、地元の子どもたちが青空に風船を飛ばしました  
【中】日本児童文学者協会は、サイン会に加えて作家が講師のワークショップ「紙コップかざぐるま」「ひよこヨーヨー」も開催  
【下】日本国際児童図書評議会のテントでは、翻訳家たちが世界の本を紹介しました



「作品に託す願い」(くすのきしげのりさん)、4日「絵本とともに旅をして」(川端誠さん)、『みずとはなんじや?』ができるまで(かこさとしの科学絵本さん)、鈴木まもるさん、鈴木万里さん)、5日「かがくのとも」創刊50周年記念 恐竜博士が語る、世界をひろげる科学絵本の楽しみ方(真鍋真さん)、『金の船』創刊100年 童謡レクチャーコンサート(周東美材さん、稲村なおこさん)。国立国会図書館国際子ども図書館では5日に「歌い、踊り、遊ぶー絵本作家によるおはなしライブ」(共催)国立国会図書館国際子ども図書館(北川チハルさん、きたじまごうきさん、永井郁子さん、かさいまりさん(コディネーター)が開かれました。

【上】国際子ども図書館での「おはなしライブ」のラストは、みんなで歌って体操  
【中】イベントテントで、楽しいおはなしライブを開催した日本児童文芸家協会のみなさん。この前後もサイン会などで大忙しでした  
【下】日本児童出版美術家連盟の「絵本・児童書の画家があなたの絵を描きます」は、人気画家が交代で登場。整理券があったという間なくなる大盛況!

■野間読書推進賞受賞者の活動報告

# 子どもたちと本を楽しみ学んだ半世紀

広島市よい本をすすめる母の会（広島県） 柴田 幸子

## 「広島市よい本をすすめる母の会」との出会い

子どもと「子どもの本」にかかわって、いつの間にか半世紀が過ぎた。小学校のPTAで「ともはと号（広島市立図書館の移動図書館車）」のお手伝いをしたことから、子ども図書館を拠点に活動している「広島市よい本をすすめる母の会」の存在を知った。グループ参加で、1か月間50冊の団体貸出を受けることができるという。



子どもたちの発表会  
「ぐども童話大会」

け、地域文庫をはじめた。交替でグループの子どもたちの顔を思い浮かべながら本を選び、おはなし会、読書会、また、みんなでおやつ作りなど、本を通して親子で楽しむ交流の場になったことを、なつかしく思い出す。

当時の子ども図書館は原爆の廃墟の中、1950年、広島出身でハワイ在住の方たちが基金を集め、子どものための唯一の施設としてできたもので、有名な建築家丹下健三氏の設計による、総ガラス張り、きのこ型のユニークなものであった。1980年の中央図書館建て替えの際には、子ども図書館をその中に併設するという案が出た。私たちは反対の署名を集め、市に何度も陳情し、現在の独立した「子ども図書館」となった。

## 「母の会」(略称)の活動から学んだこと

当時、母の会は発足3年目、私たちは手探りで活動をはじめたばかり。PTAとは異なった母親の自発的な活動を、市社会教育部や

青少年センター、子ども図書館

地域の新聞社とさまざまな形で共催できたことは、母の会にとつて幸いであった。講師を招いての講演会、自主研修会、グループでのおはなし会や親子読書会、また子どもたちが好きなおはなしを発表する「子ども童話大会」、そして会報、親子文集「さわらび」の発行など、多くのことを体験し、学ぶよい機会となった。

そして「子どもの本」の黄金時代と言われている20世紀後半、世界的にもすばらしい作品が多くの作家たちによって創りだされた。民話や古典はもちろん、ファンタジーやナンセンス、またノンフィクションでは伝記、その他に科学、考古学、環境、平和、人権と、さまざまな分野の時代や社会を反映した作品などが、つきつぎと出版されていった。

2年に一度の子ども図書館と共同の子どもを育てる良書目録『ほんはともたち』の選定では、幼児、小学校低・中・高学年、中

学生、ノンフィクションと6分科会にわかれ、思いを共有する人々との語らいは楽しく、またたいへんでもあった。自主研修会で新刊書を読み比べ、分科会で候補を絞り、全体会で最終決定、解説執筆となる。

「よい本」ってどんな本？というところば、をよく耳にするのが、基本的には「主観的なもの」で読者に感動を与えるもの、そして30年以上読み続けられてきたもの、またそれは、それぞれの子どもが求めているその子にとって適書であり、子ども時代の「だからもの」として心に残るようなものであつてほしいと願っている。

## 国際アンデルセン賞受賞作家ウーリー・オルレブ氏を迎えて

1997年11月、『壁のむこうの街』で国際アンデルセン賞を受賞されたウーリー・オルレブ氏(イラスト)が、日本国際児童図書評議会の招きで来日。ぜひ広島へ行きたいと話し、若人たちが話したい」とのこと、母の会が「ご夫妻と母袋夏生氏(ヘブライ語翻訳者)のお三方を迎えて講演会を開催した。

オルレブ氏はユダヤ人ゆえに、第二次大戦直後、父は旧ソ連で捕虜となり、家族はゲットウに隔離され母は銃殺される。伯母の助け



子ども図書館と2年に一度に選定し発行してきた『ほんはともたち』

でゲットウから逃れ、隠れ家生活を経て、アンネ・フランクと同じベルゲン・ベルゼン収容所で22か月を過ごす。14歳であった。その体験をもとに書かれた作品『壁のむこうの街』が高い評価を受け、国際アンデルセン賞を受賞。講演会とあわせて「イスラエルの子どもの絵本展」『ボード・ストリート』(原作・壁のむこうの街)映画鑑賞会と、3つの事業を行った。また、高校生も参加の「ウーリー・オルレブ氏夫妻を囲む会」は「ヒロシマ」そして「ホロコースト」という、ふれることの少ない問題に気づかされた、貴重な時間と場になったことを感謝している。

【お知らせ】広島平和記念資料館が38年ぶりに全館リニューアルし、4月25日にオープンしました。

\*「広島市よい本をすすめる母の会」は2002年度第32回野間読書推進賞奨励賞を受賞

### 優良読書グループの歩み (5)

2018年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### ふしぎなぼけつと

代表者 鈴木 房子  
宮城県巨理郡巨理町

〈推薦〉  
宮城県読書推進運動協議会

私たち「ふしぎなぼけつと」は、巨理町立図書館の布絵本ボランティア養成講座をきっかけに、布絵本の「布だから味わえる感触のやさしさ・あたたかさ、目で見ると感じる「やさしさ」に感動したメンバーが集まり、2005年に発足しました。「無理をせず、楽しく」を合言葉に、現在は9名で、毎月第2・第4火曜日の午前10時～12時まで図書館内で活動をしています。これまでに製作した布絵本やタペストリーは、図書館の子ども読書コーナーにある「布絵本コーナー」に常時展示しています。

布絵本は、図書館司書と相談し

ながら選んだ作品を、やわらかな布の特徴を生かしつつ、「原作に忠実に」をモットーに、メンバーの知恵を出しあいながら作成しています。

「原作に忠実に」製作するのはなかなかむずかしく、布選び、色あわせ、縫いあわせなど苦労は絶えません。手を動かしながらのよもやま話におたがいに慰められたり、励まされたりで、心がなごんで元気をもらっています。

これまでに作った作品は、27点を超えました。図書館読み聞かせボランティア「ぼつぽ」と連携して、「ぼつぽのおはなし会」で布絵本を利用したり、おはなし会用のエプロンシアターの作成も行っています。

また、布絵本の楽しみ方を広く普及していくために、布の玩具作りにも挑戦しています。これまで製作した「鬼の的あて」「魚釣りゲーム」などの玩具は、毎年行われる「図書館まつり」で多くの子

どもたちを楽しんでもらっています。

来館者のみなさんが作品を見てふれて、「わあー、すごい!」「すばらしい」と、感嘆の声をあげてくださいたり、また、親子でいつまでも熱心に布絵本を楽しんでいる姿を見ると、うれしく幸せな気持ちになり、またみんなががんばろうという意欲がわきます。

私たちの作品が、子どもたちが本や読書が好きになる一助になれば、との願いをこめて、一針一針縫い進めています。

これからも、すばらしいメンバーとともに、元気で楽しく活動を続けていきたいと思っています。



願いと心をこめて布絵本を制作しています

#### やすらぎ読書会

代表者 吉田 洋子  
埼玉県秩父市

〈推薦〉  
埼玉県読書推進運動協議会

近所に住む気心の知れた仲間が自然に声をかけあい、1986年7月2日に「やすらぎ読書会」は誕生いたしました。第1回の集まりは旧図書館の一室を借りてはじまり、その後新しくオープンした秩父市立図書館の和室を借り、いまま月に一度の例会を開いております。

あのころ明治生まれ、大正生まれ、昭和生まれの10人でスタートいたしました。少しずつ人数も増えましたが歳月がたつにつれ人数は減り、入つてもやめたりで現在は会員3名ですが、今年32年目になりました。

いつの時代も全員共通点は読書が好きということ。なにを読むかはひとり選ぶ人を決めて、その方の好きな本、興味ある本、または図書館よりの新刊案内の資料を参考にして月に1冊借り読んでおります。

自分では読まないであろう本、

これからも読書で新しい発見を共有して



そのとき話題になつている本など、図書館の協力をいただきながら継続してまいりました。毎月の例会には本の感想をそれぞれに語り、その後は仲間の近況報告、なにげない話のなかに有意義な話もあるのも魅力のひとつ、楽しい時間を共有しております。

会に入つていなければ月に1冊本を読むことはなかったでしょう。年に12冊も読むことなく、歳月は過ぎたでしょう。読書には新しい発見があり、知恵や心の糧が盛りこまれているので、なにかしら得るところはあったと思います。今後は3人が元気なうちには続けてゆき、そして新しい会員が入ってくれることを願っております。

### 北方町読書サークル協議会

代表者 河口久美子

岐阜県本巣郡北方町

〈推薦〉

岐阜県読書推進運動協議会

北方町読書サークル協議会の発足は、いまから40数年前になりました。その後、北方町立図書館がオープンして、今年でまる30年、町の図書館とともに、その活動の柱のひとつとして、本格的に取り組んできました。

読書サークルの運営は規約こそ定めましたが、役員を中心に、だれでも気軽に参加できるようにしました。毎回、テーマについて、いろいろな感想や意見を交流して自分自身を高めるとともに、仲間との絆を深め、読書の楽しみを広げることが目標としてきました。

活動日は、毎月第4水曜日の「読書会」です。会員のおおの順番に月の当番となり、テーマ本の選定や配本（県図書館からの借用、読書サークルで購入など）、読書会当日の司会進行も務めます。最近の心に残った本は『この世界の片隅に』『遠い山なみの光』『羊と銅の森』などです。

そして、年中行事として「たづる読書会（旧本巣郡の穂積・真正・北方・糸貫で順番に開催）」を実施し、ほかの市町のグループとも交流し、読書の輪を広めています。

また、会員みんなのお楽しみ行事「文学散歩」研修（年一回）では、実際に肌を感じ、目で確かめあうことを通して、読書のすばらしさを追求しています。会員の高齢化が進み、近場ではありませんが、毎回楽しい企画を実施しています。最近では、各務原市にある、日本最初の女優・貞奴の建立した貞照寺、川上別荘を訪ねました。ちょうどお釈迦さまの誕生日にあたり、ご住職の読経や講話、甘茶もいただける幸運に恵まれました。



思い出深いものとなった貞照寺への文学散歩

宝物殿には貞奴の遺品が多数展示され、当時の活躍がしのべられました。電力王・福澤桃介とともに過ごした和洋折衷の別荘もすばらしいものでした。桜一色に染まる景色をあとに、国宝・大山城を見学、その深い歴史にもふれることができた有意義な研修でした。

会員には作家の方もいて、読書会のときには、そのつど適切な意見やアドバイスがあり、大いに助かっています。北方町読書サークルが永く継続している大事な要因のひとつになっています。

これからも、もっと幅広い読書活動に積極的に参加して、若い方々の入会に力を注いでいきたいと思っています。

### パペットキッズ

代表者 亀井 和子

大分県別府市

〈推薦〉

大分県読書推進運動協議会

私たち「パペットキッズ」は、2003年5月、「別府親と子の劇場」の自主サークルとして、発足しました。親子で楽しい時間を過ごしてもらえたらと「出前でおはなし会」をはじめました。

子どもたちの笑顔とエネルギーに！



の笑顔です。子どもたちの真剣な顔や楽しそうな表情を見ると「やっつてよかった」と思います。おはなし会をはじめたころから行っている放課後児童クラブの子どもたちは、長い絵本も真剣に聞くようになりました。素話『吉四六話』のおもしろさもわかってきて、「今日は吉四六さんなの？」と催促するようになっていきます。続けていくことの大切さを教えてもらいました。

毎月、子育て支援センター（3か所）・放課後児童クラブ・発達医療センター・書店の6か所でおはなし会をしています。

ほかに、図書館・幼稚園・保育園・児童館など依頼があれば、出かけていきます。メンバーは9名。それぞれ忙しいなか、時間を作って参加しています。

毎月はじめに「パペット会議」を持ち、今月のスケジュールを調整します。おはなし会の内容は、絵本、ストーリーテリング、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、わらべ歌など、年齢や季節を考えながら決めていきます。私たちの原動力は、子どもたち

今年、伊藤忠記念財団より助成をいただき、5回の連続講座を開催し、多くの方に参加していただき、ともに学ぶことができました。学ぶことで、私たちも成長し、これからのおはなし会に生かしていきたいと思っています。そして、将来、おはなし会や講座に参加してくれた人たちが、次世代の子どもを育てる担い手となってくれることを願っています。

# 2018年度 全国読書グループ調査 一次集計 完了！ 読書グループ数は1万2341(速報値)

全国公共図書館協議会の全面的な協力のもと、全国の図書館・類縁機関よりご回答いただきました「2018年度全国読書グループ調査」の一次集計が終わりま

した。今回の調査は、2018年10月1日現在で各図書館・類縁機関が把握している読書グループと活動内容などを調査いただき、2007の図書館・類縁機関から回答をいただきました。お忙しいなかのご協力を、心より感謝申し上げます。

回答いただいた読書グループの総数は1万2341(以下、数はすべて速報値、最終的に変わる可能性があります)。前回(2013年度調査)の1万1452と比べ、889増加しました。子どもの本を対象とした活動のグループは9903(前回より817増)、

一般の本を対象とした活動のグループは3661(前回より35増)、また、子どもの本・一般の本両方を対象とした活動のグループは1729(前回より437増)となっています。活動者数はのべ16万1142人(前回より9703増)です。

活動内容別に見ると、子どもの本・読書会913(16

増)、研究会831(99増)、実演G8020(909増)、文庫1141(74減)、読書支援734(211増)、環境整備822(145増)、友の会131(54増)、連絡会682(122増)

○一般の本・読書会1428(192減)、研究会583(82増)、実演G1307(335増)、文庫442(1増)、読書支援546(212増)、環境整備226(80増)、友の会127(40増)、連絡会216(14増)

○子どもの本・一般の本両方・読書会243(34増)、研究会239(62増)、実演G1102(307増)、文庫409(27増)、読書支援310(129増)、環境整備183(63増)、友の会7(31増)、連絡会146(28増)

○( )内は前回比となっています。編集部では今後、活動内容や活動場所などの二次集計を進めると同時に、『2018年度全国読書グループ総覧』発行に向けて編集作業を進めてまいります。また、都道府県別のグループ数など、一次集計の詳細を、5月中旬以降

読書推進運動協議会ホームページで速報として掲載する予定です。

## 事務局報告(4月)

- ・2日「上野明正堂クリップBook&Artにて「上野の森親子ブックフェスタ」みんなで遊ぼうらくがきイベント」打ちあわせ
- ☆4日「朝日税理士法人に「2018年度収決算書」の作成を依頼
- ☆4日「機関紙『読書推進運動』(67号)別冊付録「読書週間行事報告」一覧入稿
- ・5日「6日」(大震災)出版対策本部第8回バスターミーティングに参加
- 岩手県釜石市・陸前高田市を訪問して公共図書館、書店、学校図書館各種施設などを見学、全通した三陸鉄道の震災学習列車に乗車
- ☆8日「機関紙『読書推進運動』(67号)本紙入稿
- ・11日「上野の森親子ブックフェスタ2019」運営委員会に出席
- ・11日「平成31年度「高川英治賞」贈呈式」に出席
- ☆15日「機関紙『読書推進運動』(67号)本紙・別冊」発行
- ☆16日「竹村和子監事に「2018年度収決算書」の監査を依頼。その後、西村俊男監事、佐藤潤一監事に順次、監査を依頼
- ・17日「大震災」出版対策本部運営委員会に出席
- ・17日「とよたかずひこさんと「子ども読書の日」ポスターについて打ちあわせ
- ☆23日「5月12日」第61回「子どもの読書週間」
- ☆23日「2019年度第1回常務理事会」を開催。出席7名、欠席2名
- 2018年度事業報告書・決算報告書案と2019年度事業計画書・予算書、新役員候補者選出を審議承認
- ・23日「子ども読書の日記念」子どもの読書活動推進フォーラム」に出席
- ・24日「上野の森親子ブックフェスタ2019」運営委員会に出席

## 編集部 & 事務局のひとこと

●20年ほど前に、ツアーでイランを訪れました。ペルセポリス観光の拠点の街・シラズには詩人の美しい廟が、古都イсфаハンの宮殿には、いるだけで音楽が聞こえてくるような装飾の部屋がありました。宮殿やモスクのパンフレットのデザインも美しかったと記憶しています。その後、イランは国際的な絵本・絵画コンクールに多く入賞している「絵本大国」であるのを知ったとき、「なるほど」と納得しました。

●私が旅行したのは、改革派のハタミ大統領が就任する直前。シラズのバラ園で出会った女子学生が目を輝かせて、「私たちが、新しい大統領を選んだの。これからが楽しみ！」と英語で話してくれました。これまた意外なことに、イランではかなりの人が英語を話します。公共交通は男女別の車両、売店の店員さんが美しい装飾のコランをうやうやしく棚から出すなど、イメージどおりの厳格なイスラム主義にふれる一方、意外な面も多く知った旅行でした。

●東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館で、7月21日まで展示会「詩と図書館の国 イランの子どもの本」が開催されています。華麗なペルシア文化を思わせる絵本や、荒々しくも悲しい伝説を題材にした絵本、現代の子どもの描いたYA小説と、「イランって、こんな表現が多彩なの？」と驚くような作品に出会えます。日本ではまだなじみの薄いイランの子どもの本ですが、この機会にぜひ、多くの方に楽しんでもらいたいと思います。(伸)